

Japan Shakuhachi Professional-players Network The 2nd regular concert

## 日本尺八演奏家ネットワーク(JSPN) 第2回定期公演

<日本のプロ尺八演奏家たちの競演>

Performance by Japanese professional shakuhachi players

—尺八の音は「楽音」と「噪音」をどのように行き来しているのか—

Musical-tone and Noise-tone included in Shakuhachi Sound

「尺八ではどのように用いられ、その音はどのように伝わるのか」  
専門家による音響的な解説も含めてお聞き頂きます



出来るかぎり樂音(純音)に近づけようと進化した洋楽器  
樂音とともに噪音を大切に育んできた和楽器

Western musical instruments evolved to approach Musical-tone (pure tone)  
Japanese traditional instruments have valued Noise-tone and Musical-tone sounds equally  
"How is it used and heard in Shakuhachi music?" Listen to audio commentary by experts

2021年  
**5/13(木)** 16:30開場／17:00開演  
豊洲シビックセンターホール

[東京都江東区豊洲2-2-18]

主催 日本尺八演奏家ネットワーク(JSPN)

助成 アーツカウンシル東京(公益財団法人東京都歴史文化財団)

後援  公益財団法人日本伝統文化振興財団  
JAPAN TRADITIONAL CULTURES FOUNDATION

ARTS  
COUNCIL  
TOKYO

有限会社 邦楽ジャーナル

## ご挨拶

本日は他出の躊躇われるなかにもかかわらず、「JSPN第2回定期公演」にお運びくださいまして誠にありがとうございます。

私たち日本尺八演奏家ネットワーク(JSPN)は、「尺八音楽および尺八演奏家の価値を高め、日本文化の発展普及に寄与すること」を主たる設立趣旨とし、プロ演奏家のみで立ち上げた唯一の尺八演奏家団体です。

2019年5月の設立公演では、伝統の楽曲の互いの独創性を尊重しながら創造的、実験的な取り組みを行い、流派、ジャンルを超えてお互いを認め合うという意味を込めて「VURSUS」を表題として掲げ「伝統は受け継ぐものではなく残ったものが伝統となる」という内容で旗揚げいたしました。

昨年は、新型コロナウイルス感染流行対策により、やむなく第2回定期公演を延期しましたが、感染防止への対策を講じ、尺八音楽を肌で感じていただきたく、専門施設において専門家による監修のもと「尺八吹奏における飛沫検証実験」独自に行いました。その結果を広めるため「シンポジウム+サロンコンサート」の開催と同時に動画を配信し、今回の公演にても、この実験を踏まえて万全の対策を取り組んでおります。

さて、この第2回公演では、今まで演奏が受け継がれてきた楽曲の更なる追究、尺八の音色の原点の探求はもとより、尺八の持つ特有の音色や間、音の重なりや特殊な奏法を基に新たな尺八音楽の構築を目指し、規則的な振動を持つ「楽音」と、非整数倍といった複雑な共鳴倍音を有する「噪音」に焦点をあてて、世界初演の新作を組み入れて楽曲を発表いたします。

尺八の音を究めんと飽くなき欲望に燃える我ら求道の輩の共鳴、集結する「樂音+噪音=尺八」のひとときを、どうか最後まで暖かくお見守りください、ご忌憚のないご意見、ご高評を賜りますようお願い申し上げます。

末筆になりましたが、このたびの公演にご尽力くださいました志村哲氏、愛澤伯友氏、正会員の関一郎氏、特別会員の各氏、また、助成をいただきました公益財団法人東京都歴史文化財団アーツカウンシル東京様をはじめ、多くの皆様に心より感謝と御礼を申し上げます。

日本尺八演奏家ネットワーク[JSPN]

## プログラム

**海童道 道曲「山 越」** 地なし尺八 素川欣也

第一部

**尺八古典本曲「越後三谷」** 尺八 神 令

**琴古流本曲「鹿の遠音」** 尺八 倉橋容堂 石川利光

**都山流本曲「春の光」** (流祖中尾都山作曲)

尺八一部 川村泰山 武田旺山 尺八二部 野村峰山 田辺恵山 尺八三部 山口連山 柴 香山

**尺八三重奏曲「風 動」** 杣屋正邦作曲

尺八Ⅰ 難波竹山 尺八Ⅱ 田嶋謙一 尺八Ⅲ 元永拓

**「quo ego vado」** 愛澤伯友作曲／新作初演

第二部

尺八Left 小湊昭尚 川村葵山 大山貴善

尺八Center 田野村聰 田辺頌山 大河内淳矢 小濱明人

尺八Right 岩田卓也 松本宏平 石垣征山

**「五群の尺八のためのPentatonic Concerto」** 関一郎作曲／新作初演

指揮：関一郎 尺八Ⅰ 大山貴善 善養寺恵介 竹井誠 田野村聰

尺八Ⅱ 岩田卓也 川村葵山 徳丸十盟 米谷和修

尺八Ⅲ 坂田梁山 田辺頌山 本間豊堂 松本宏平

尺八Ⅳ 大河内淳矢 小濱明人 田嶋謙一 原郷界山

尺八Ⅴ 大賀悠司 小林純 素川欣也

## プログラム解説

### 【第Ⅰ部】 古典本曲解説 志村 哲(編集)

各曲の解説は、それぞれの演奏者の伝承系譜と思いを尊重したく、各人から提出された解説と、既存の資料を参照／引用して編集しております。

#### 海童道 道曲「山越」

山越は、山と海とのけわしいすがたをうけて開かれたものである。そこには、山越えと波返りとの技巧が表われ、技巧中の一つ、山越えを探りて道曲の名としている(「海童道 鹿の遠音 道曲吹定・海童道祖」日本フォノグラム1979、レコード解説より)、とあります。海童道祖の世界観を解説する事は難題ですが、個人的にこの曲は道曲の中でも野性的な豪快さが色濃く現れている一曲だと思っています。

#### 尺八古典本曲「越後三谷」

この曲は、越後の明暗寺に伝えられたため「越後三谷」と呼ばれる。越後の明暗寺は、徳川時代に越後村松の城主が村松城下に建立し、のちに三条市南の下田に移転された。この寺は一寺一律(一つの寺で、一曲のみをその寺の曲として正伝すること)の方針で、この曲のみが吹徹されたが、準曲として「鈴募」が伝えられた。神如道は、斎川梅翁よりこの曲を伝承した。(「尺八古典本曲の集大成者 神如道の尺八」ティチク1980、レコード解説書より引用)

#### 琴古流本曲「鹿の遠音」

琴古流本曲、裏十八曲中の秘曲一曲。一計子より伝来、と『琴古手帳』にある。本来の曲名である《呼返鹿遠音よひかえ(へ)ししかのとお(ほ)ね》が示すとおり、二人の奏者が交互に演奏する。この吹奏形態は古典本曲ではこの曲が唯一。琴古流初期から交互演奏され、『一閑流尺八本曲譜全』(1847)にも雌雄の鹿の音声と記されていることから、鹿が鳴き交わす情景描写に噪音が多用されたと推察されるが、こんにちの演奏においては、音響的には木靈と解釈されることもある。この曲は、明暗対山派にも改編／伝承されている。また、明暗真法流本曲には同名異曲が存在する。(『尺八古典本曲の研究』月溪恒子2000を参照した)

#### 都山流本曲「春の光」 流祖 中尾都山 作曲(1907年/明治40年)

都山師の作品で、初めて3拍子系のリズムが導入された曲です。「曲想は、うららかな春の光のかがやき渡る中に、森羅万象ごとくその陽光を浴びて、嬉々として生を楽しむ」と『都山流百年史』に記載され、「春の輝き、雲雀の轉る様、胡蝶の舞う様、春霞、春光の気分」などの雰囲気が表されています。また、都山師が初めて取り組んだ積極的な和声への熱意を強く感じる構成となっていて、完全四度と完全五度を組み合わせた実験的なフレーズ。複数の声部が和声を構成する旋律の進行や、これまでの邦楽界では見られない「ホモフォニー」への実践を試みた先駆的な作品となっています。初演は三部合奏として発表され、1947年(昭和22)に全音楽譜出版から発刊された際、初代都山師が二部合奏に改編されました。今回は、当時の音楽を再現する目的で、三部合奏の形で演奏をいたします。(野村峰山氏による解説より)

### 【第Ⅱ部】

#### 尺八三重奏曲「風動」 杵屋正邦 作曲

ふと思いついた風動という文字と語感が何となく暗示的で好ましかったので、折があったらこの題名による作品を書きたいと思っておりました。たまたま尺八三本会諸兄から作曲の委嘱があり、思案を重ねているうちに、少しずつまとまりかけてきた楽想と風動という言葉の奥にある情感とがいつのまにか一致していることに気づき、この作品を「風動」と命名することに決めました。

作品は、まず第三尺八の独奏にはじまり、第二がこれを受けて第一に渡し、次でこの反対をゆくといったように、超人のながい一呼気を想わせるきわめて遅い「起」の部分があつてから、刺激的な短い音型を随所に含む「承」の部分に入り、一変して八分の六拍子、八分の五拍子による軽快な「転」のくだりとなり、さまざまな動きがあつてから再びもとの静かな部分に戻り、これを「結」として終わります。

「第二回尺八三本会」1965年12月16日 第一証券ホールに於いて初演。

#### 「quo ego vado」 愛澤伯友 作曲／新作初演

本演奏会のタイトルでもある「噪音」から「樂音」というテーマで作曲を依頼された。

これまで作曲した多くの作品は、ノイズの分析と再構成でその垂直成分が構築されている。尺八に含まれる無尽蔵な倍音成分やモジュレーションとも言える音色変化には魅了される。ひとつの素朴な音の上に玉虫色の倍音が閃光し、時間変化とともに響きを変化させていく。その空気感を掴んで音符に定着させるため、これまで多くの時間を費やしてきたが、未だ、その記譜法は確立できていない。

「樂音には分かりやすい音で」とも依頼された。

つまりそれは古典的和声の世界を指している。尺八は日本の古楽器。であれば、音組織も「西洋古楽」の時代。つまり、ルネサンス期の音楽を書こうと、ジョスカン・デュプレ作曲「Mille egretz(千々の悲しみ)」を最後に配置し「噪音」から「樂音」への構成を考えた。荒波を乗り越え、宣教師達がキリスト教とともに持ち込んだ木製パイプを持つ「ポジティブ・オルガン」の響きは尺八の響きとなぜか似ている。

タイトルは、ラテン語の『ヨハネ福音書』からの1節。古樂という所から直感的にタイトルのラテン語表示が結びついた。「私の行くところ」。関係代名詞ではじまり、その指す場所は、まさに誰も知り得ぬ場所。作曲をする際の信条に近いと感じた。

原始の風の音とも言える噪音から、樂音の根源を築いた西洋ルネサンスへいたる響きの旅。

#### 「五群の尺八のためのPentatonic Concerto」 関一郎 作曲／新作初演

この曲は昨年2020年JSPNの委嘱作品として作曲し同年5月第二回定期公演で演奏される予定でしたが新型コロナウイルスの影響で延期となり本日初演される事となりました。

五音音階(Pentatonic)を主として使い合奏協奏曲(Concerto)として独奏部分では尺八本来の繊細な部分を生かし、合奏部分では豊かで重厚な響きを期待して書きました。

ここでは長さの違う6種類、一尺一寸(a管)、一尺六寸(E管)、一尺八寸(D管)、二尺一寸(H管)、二尺四寸(A管)、二尺七寸(G管)が使われ、演奏者は5つの群(グループ)に分かれます。曲の前半では5音音階(Pentatonic scale)により作られる5つの異なるアルペジオ的なモチーフによるトーンクラスター、上管による現代尺八よりはるか昔存在していたかも知れない架空の尺八による即興的な部分、これらと同時進行する古典本曲風旋律が現われます。中間部では軽快なリズム、今日的なハーモニーによるポピュラー音楽風に変貌し、異なる寸法の尺八によるゆったりしたモーダルな即興的な部分の後、現代的なモチーフと伝統的な旋律の混合が展開され、短いトーンクラスターの再現の後、曲は終わります。

2020年、劇変した社会情勢によって、本公演は1年延期されました。2021年の本日、私達がここに集うことができたということは、少なくとも都市における尺八界におきましては、新しい活動様式の扉が開かれたと考え、お喜び申し上げます。

さて、伝統音楽は、各時代の社会情勢に対応して、変化させることで維持できてきたと考えます。また、歴史とは後の人々が編んだ物語であると云えるでしょう。そこで、様々な解釈が存在するのは、各人がどの局面に立たれているかで、重視する側面と、それに基づく見解が異なるからであると感じます。よって、多様な文化、様々な歴史観が併存する現代社会において、尺八界を支えるすべての方のお考えにご納得いただける解説はできないと思っております。

本解説は、多種多様なかたちで発展した「尺八楽」において、いま私が向き合っている地無し尺八（および作者）との対話から得られたイメージを、他ジャンルへも膨らませられるかの手掛かりのようなものかもしれません。ですから、以下は「ひとつの見方」であることをお断りしておきます。なお、これまでの知見と諸文献より根拠も探しながら、この大役を務めさせていただきます。

私は、20世紀の後半に、日本音響学会の音環境談話会の幹事を担当したことがあります。サウンドスケープ／騒音公害について、音響学的な議論が為される現場で働きました。まず、当時の見解が記された『新版 音響用語辞典』（日本音響学会編、コロナ社1988、2003発行）を確認してみましょう。

#### 噪音合成：

電子楽器や音楽の制作に使える要素となる音の信号を電気的な方法で生成すること。（後略）とあり「噪音」単独の項目はありません。ちなみに、これは、私のもう一つの専門領域でしたが、特に邦楽器については、いまだにまったく納得がいく合成ができないという状況にあります。

**噪音：**一般的には、雜音と同義語であるが、三味線の撥音や尺八のムラ息、箏の摺り爪の音など、日本の楽器に現れる雜音的な音色に対して肯定的に使用する総称。西洋音楽の基準では音楽に適する音は雜音の少ない、いわゆる「噪音」であるが、日本を含めアジアには「噪音」とは別の音楽文化があり、西洋の基準からすれば「騒音」と呼ばれるような音を伝統的に生かしてきた。（全文引用）

**騒音：**望ましくない音。（中略）いかなる音でも、聞き手にとって不快な音、邪魔な音と受け取られると、その音は騒音となる。（後略）

**雜音：**①振幅、位相、周波数などが統計的に不規則に変動する音または振動。（中略）対応英語noiseは、雜音と騒音の両方の意味に使われるが、日本では、雜音と騒音は一般に区別して使われる。（後略）

よって、音響学的には噪音と騒音は明確に区別されています。また事情によっては「音楽」も騒音に成り得るものであり、一方、噪音は英語にはできないアジア固有の概念であるとれます。そこで、英語で「噪音」について語る際には「noise」と呼ばずに「souon」を広め、やがては英語辞書に載るようになれば幸いです。

本日、お集まりの皆様は、邦楽に慣れ親しんでおられる方が多いと拝察いたしますが、これまで私たちは、邦楽器と伝統音楽は在って当たり前という社会を謳歌してきました。そこで「噪音」も「噪音」も区別なく、邦楽として捉えているのではないでしょうか。たとえば『日本音楽大事典』（平凡社1989）や『邦楽百科事典』（音楽之友社1984）には、単独の項目はありません。つまり、本来、これらはひとつの音なのであって、分けるべきでもなく、かつ対峙するものではなかったと考えられます。

前回、第1回定期公演のテーマ「鶴の巣籠」は「噪音」のオンパレードであることが知られていますが、これは演奏技法的に見れば、尺八音楽の極みであるといえるでしょう。あるいは「噪音の世界に遊ぶ」という捉え方もできるかもしれません。

そこで「噪音」とは、楽器固有の特徴（材質と構造）によって、あらかじめ準備された現象が、演奏者の内発的衝動によって体系化されたものであり、その工夫の過程で、自然界の環境音との近似を直感した結果としての意味づけが、地域毎の自然環境の中で共有され、維持されている当該文化固有の様式であるといえないでしょうか。

私は、日本に暮らしながら、西洋音楽環境出身の尺八家であることを自覚しています。だから、敢えてそこから出来るだけ遠くへ離れていくことを念じてきました。尺八奏者はなぜ「首を振るのか」尺八音楽にはなぜ「コロ音」や「カラ音」が必要なのかの答えは、ひとつではないわけですが、私の「明暗尺八」習得と実践活動のなかで、絶えず参照してきたのは、日本文化でいわれる「間」の問題です。それは「楔吹き」や「フリ」のタイミングにおける一音毎に生じるその場限りのリズム感として集約できます。その感覚は、時間を計るのではなく、空間の距離を詰めることであると察します。そのことを、武道の呼吸とも通じるとおっしゃる方もあります。人は、噪音により気配を感じます。また噪音には、日本の少し前の生活様式であった、和風建築や絹の着物での生活から生じる音にも似た心地よさがあります。

一方、西洋音楽史上の20世紀前半、前衛的な新音楽様式の一端に「騒音音楽」という概念がありましたし、20世紀後半の「ノイズ・ミュージック」も先鋭的な魅力がありました。それより少し後に訪れた現代邦楽ブームにもまた、騒音の刺激的な側面が強調された「ムラ息」が多用される作品が見受けられました。それらは「騒音的である」と捉えられていたと言えるでしょう。現代においても、虚無僧尺八や都山流本曲の伝承者は、共通に「古典にはムラ息はない」と述べておられますので、尺八樂においては「噪音」と「騒音的ムラ息」は異なる音楽様式の奏法であると位置づけられます。

邦楽において、高品位な「噪音」は、動作から生じる小さい音に耳を傾ける感性と、日本古来の自然観によって編み込まれた魅力的な側面であるとすれば、未来の伝統邦楽において、それがたとえ都市のコンサートホールが中心である場合でも「噪音＝樂音」となるような工夫に注力することによって、世界中の音楽の中で、邦楽の伝統は高く評価されていくと私は信じます。

たとえばピアノでD音をポンと弾くと、それは「レ」でしかない。あると言えばグラフで書いたように綺麗に音が減衰していくだけ。フルートの人は毎日「ロングトーン」の練習が欠かせない。同じ高さの音を音程や強弱が揺れることなく、できるだけ長く吹き続ける。それは限りなく純粹な音に近づける努力。しかし、尺八はそうではない。

同じ「口」の音を吹いても、吹き出しから音が安定するまでに、様々な音が鳴る。ピアノのように「レ」だけが鳴るなんていう単純なものではない。音が安定してからも、息や唇のほんの少しの変化によって音は極彩色に変化する。そして、そのことは奏者によって異なり、また、同じ奏者でも楽器によって、日によって異なる。ただ、残念なことに、そうした音の変化に気がついている奏者は少なく、そのため、それをコントロールできる奏者も少ない。

奏者によって、楽器によって、その出てくる音は異なるので、記譜することができない。練習で奏者に直接、「その高い方でヒーと鳴っている音わかりますか?」「そこで息を急に細めたらどうなりますか?」「その指使いのまま上の音に移れますか?」「今の感じです。もう一度やってもらえますか?」と永遠と禅問答みたいな時間が続く。それをして無理な奏者もいる。その多くは西洋音階を吹き慣れている奏者。恐らく彼らはフルートと同様に音を安定させることに注力し過ぎているのだと思う。でも、尺八の本当に美しさはそこにはない。

ひとつの音を吹き始めた瞬間、まずは、息が唄口にかかるまでの「シュー」という息の音がする。

- (1) そして、息は唄口から管の中に入り、物理現象通り開管の振動がはじまり、管楽器本来の音が鳴りはじめる
- (2) しかし、ここからが面白い。普通の管楽器であればそこで安定するのに、奏者が恐る恐る吹き込んだ息の量を通常の量に増やそうとした途端、その開管の原理は破綻して、管自体の空鳴り現象が起こる。
- (3) 急にガソリンを過激に投入したためにシリnder内での燃焼を継続できなくなり、エンスト状態になるのと同じように、本来の力が一端途絶える。「ボー」っという原始的でお腹に来る音が鳴り響く。そして、次の瞬間、音は一気に上方へ跳ね上がり「ショアアーリー」と極彩色な倍音がいくつも飛び散る。
- (4) そして、その閃光がなかったかのように、本来の音に瞬間で戻る。
- (5) この間、約1秒。

(4)の高音に吹き散る倍音は、奏者によってまったく異なる。そして、ほとんど発音しない奏者もいる。(3)の空鳴の時間も奏者によって異なる。この時間が長い奏者ほど、(4)のきら星が美しい。そして、その奏者は(3)の時間もコントロールができる。(でも、多分本人はそのことを意識していないけど)仕方ないので、その音のチューニングには禅問答のようなもので調整をし続ける。楽譜や記号のようなもの、尺八の吹き方など、こちらが伝える手段がないので、「もう少しこうした」「ああしたら」と微妙なチューニングが続く。僕はその中で、奏者の出せる「最大公倍数」の妥協点を探す。

あるアメリカの尺八奏者は「私はNewYorkerなので人から批判されるのに慣れている。だから何でも言ってください」と言われ1時間弱ひとつの音について二人で努力したことがある。また、尺八のオリジナル曲を初めて依頼されたときの奏者は、高次の倍音をチューナーで計り、意図しない音を消す努力をし、後には聴こえるようになったという。(彼はその訓練のために十二指腸潰瘍になつたと主張していたが…)

最近の若手は凄い!その数週間の努力や、数時間の禅問答を全く必要としない人種が登場してきている。  
「これなんかどうですか?」「こんなこともできますよお~」この数十年の尺八奏者の進歩は凄まじいと感じた。  
本番前の限られた時間内で僕は「ふわあーー」と圧倒されるばかりで、「じゃあ、2番目のやつで」とお願いするのが精一杯で、その吹き替えられる違いが何であるのか突き止められていない。そして、その例示された標本は、音がしっかりと立ち上がったときのパターンであるので、時間と共に微細に変化する音についてはディスカッションしたことがない。

こうした色彩豊かな音は古典を学び訓練された奏者に多い。古典の楽曲にはそれだけでさまざまな音が隠されている。これを言葉か記号で表現ができれば良いのに…と、古典曲を聴きながらいつも夢見ている。私は尺八曲を書く作業はいつも古典曲を耳に入れ、尺八のその上方での美しいなびきを頭の中に呼び起こす作業からはじまる。その音は、奏者が気づいていないので、だから作為的な感じのする音ではなく、管が音と音の間に自然に作り出す音がそこに存在している。

これまで書いてきたのは、あくまで「吹きはじめ」の現象だけ。このほかにも「吹いている中で息の量が変わったとき」「長く伸ばしているとき」「息が苦しくなったとき」「低音を吹いているとき」「高音を吹いているとき」「メリ音の音程を無理に合わせようとしたとき」「強く吹いて弱くしたとき」「弱く吹いて強くしたとき」「二音をなめらかにつないだとき」「二音を乱雑につないだとき」「音程が大きく変わったとき」「音程を保つためにフォークフインガリングをしたとき」などなど、永遠とそうした現象が起きる時点を示せるけど、そこにそれぞれ数十のパターンが存在して…なんとか書き止めたいけど、やはり、奏者による違いが多過ぎ、未だに的確な指示できないでいる。

## 尺八音の解析と作曲

こうした音をなんとか表現して、奏者に伝えようとこれまで様々な方法を試みてきた。

まずは、周波数分析。…… 続きはJSPN公式ホームページで

## 解説・作曲家プロフィール

### 志村 哲(禅保)

[尺八研究家・大阪芸術大学教授／特別会員]

SATOSHI SIMURA (ZENPO)

大阪芸術大学音楽学科で音楽工学を専攻。電子音楽・コンピュータ音楽の世界における伝統邦楽様式の継承、邦楽の録音技術を研究/Cyber 尺八による竹管の宇宙『電脳巣籠』が ICMC1994 デンマーク、1996香港に入選、また歴史的尺八伝承者・演奏家のLP、CD、データベース制作に従事/尺八を竹流開祖・酒井竹翁、三世・酒井松道に師事/月溪恒子と全国尺八史料調査を行ない各地の虚無僧尺八の技法を学ぶ/尺八の音楽学・楽器学的研究で博士(学術)/国際尺八フェスティバルほか国内外で古管尺八の価値の再評価について講演・演奏、地無し尺八により様々な前衛的作品を初演/近年は神社仏閣での奉納演奏、日本音楽教育の再構築、尺八博物館運営に傾倒/大阪芸術大学教授(音楽・音響デザイン・尺八実技、音楽文化学) /東洋音楽学会、日本音楽学会、民族藝術学会、情報処理学会会員/明暗寺虚竹禅師奉讃会常任理事、虚無僧研究会終身会員、兵庫県日本文化教育振興会理事



### 愛澤 伯友 [作曲家／特別会員]

SHIROTOMO AIZAWA

東京藝術大学音楽学部作曲科並びに同学院修士課程修了(全額学費免除生)、その後、ベルリンとウィーンにて指揮の研鑽を積む/作曲を三善晃、野田暉行、篠原真、エクリチュールを島岡謙、鶴崎康一、ピアノを植田克巳、指揮をフランシス・トラヴィス、ユリウス・カルマーに師事/安室賞、国立劇場作曲、バナマ運河返還功労者、米 AOPA 功労者、米 IEEE2014 (KDDI 協同研究)などを受賞/デジタルハーリウッド大学客員教授、尚美学園大学(音楽表現)・名古屋音楽大学(映像メディア・看護)、名古屋国際大学各講師(仏語)、米 UMC 特別講師、米 Washin Air Inc. CIT. (財)RINE 歴史文化まちづくり研究所理事。



### 関 一郎 「作曲・指揮／正会員」

ICHORO SEKI

琴古流尺八を横山勝也氏に師事、NHK 邦楽技能者育成会 18期卒業/1975 年パンムジークフェスティバル「日本伝統楽器による現代演奏コンクール」独奏の部第一位優秀賞受賞/以後国内外で演奏活動を始め、特に「追分節考」(柴田南雄)は東京混声合唱団など多くの合唱団と共に演し、海外でも數多く演奏する/近年 Jordi Savall(ビオラダガンバ奏者)が企画する西洋古楽器による公演「フランシスコ ザビエル/東洋への道」に参加し 2005 年よりヨロッパ、北米で 10 回程公演する/また作曲の分野では青島吉志、水野修、松平慶高、橋高悠治の諸氏に教えを受け 1995 年及び 99 年には文化庁舞台芸術創作奨励特別賞受賞、第 2 回国立劇場作曲コンクール優秀作品賞受賞(1999 年)/現在邦楽器グループオーラ J 会員

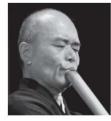


## 出演者プロフィール (正会員／演奏家)

### 石川 利光

TOSHIMITSU ISHIKAWA

大阪府出身/琴古流尺八、古典本曲を横山勝也、古曲を五世荒木古童に師事/NHK 邦楽技能者育成会第 37 期首席修了/NHK 邦楽オーディション合格/リサイタルの成果により文化庁芸術祭音楽部門新人賞・同優秀賞(2 回)、青山音楽賞パロックギター賞を受賞/大阪邦楽ギルシステム代表、石の主会宰、国際尺八研修館常任講師、青山音楽賞選考委員



### 石垣 征山

SEIZAN ISHIGAKI

幼少のころより父・石垣征山に師事し、その後山本邦山(人間国宝)に師事/東京藝術大学音楽学部邦楽科卒業/東京邦楽コンクールくまもと全国邦楽コンクール、都山流尺八楽会本曲コンクールなどで最優秀賞を受賞/孤高な存在感、魂を擽るばるい昂然の演奏力、幅広い音楽性に裏付けられた叙情的な表現力は高い評価を受けている/映画のエンディングテーマや伊勢志摩サミットの公式PR動画テーマ曲提供など、作曲活動も行っている



### 岩田 阜也

TAKUYA IWATA

愛知県常滑市出身/12 歳より尺八をはじめ岩田恭彦に師事/東京藝術大学音楽学部邦楽科入学後人間国宝山本邦山師に師事/2004 年第 10 回「長谷検査記念全国邦楽コンクール」にて最優秀賞・文部科学大臣奨励賞を受賞/2006 ~ 11 年、ドバイ、ルーマニア、グアム、サイパン、サンフランシスコ、インドネシア、シンガポール、中国、フランス、ハンガリー、韓国、ニューヨーク、イタリア、カタール、クエート、サウジアラビアで公演/2009 年 東京邦楽コンクール 1 位受賞と日本伝統文化振興財団賞の受賞/2011 年 東京フィルハーモニー交響楽団とソリストとして共演/2012 年、尺八世界一を決める大会「国際尺八コンクール」が開催大会で優勝/筝や尺八だけでなくラジックからロック、ジャズ、歌謡曲、POPS、太鼓や津軽三味線、声楽、ダンスユニットなどの競演は年を数えることに今も増え続いている。



### 大賀 悠司

YUJI OGA

1986年生まれ。東京都出身/中央大学文学部卒/東京芸術大学大学院修士課程修了/NHK 邦楽技能者育成会54期修了/18歳で尺八を始め、これまで菅原久仁義師、本間豊堂師の各氏に師事。また、東京芸術大学在籍中、琴古流尺八を竹内皓盟師に師事/長谷検査記念くまもと全国邦楽コンクール優秀賞受賞/市川市文化振興財団新人演奏家コンクール邦楽部門優秀賞受賞/NHK 邦楽オーディション合格/学習院大学和楽器サークル「玉緒」・首都大学東京三会楽講師



### 大河内 淳矢

JUNYA OHKOCHI

桐朋学園芸術短期大学日本音楽専修卒業、NHK 邦楽技能者育成会 55 期修業/自作曲を中心とした演奏活動を行うほか、和楽器の世界を越えたアーティストとの共演も積極的に進行/海外公演を多数成功させ、2012 年に外務省在外公館長表彰を授与される/国内外で開催された国際音楽祭にも多数出演、イベントや楽曲プロデュースも手がける/テレビ番組、CM や舞台音楽、アーティストのレコードイング等にも参加/オリジナル CD を 3 枚リリース/2017 年より尺八フルートを融合した楽器「オークラウド」の奏者としても活動している。



### 大山 貴善

YOAMA KIZEN

神奈川県出身。琴古流尺八を松山龍盟師に師事、琴古流尺八、普化本曲、根岸派錦流三三橋貴風師に師事/父・大山貴善の影響で臨済宗大本山国泰寺 妙音會に残る古典本曲教典を伝承/NHK 邦楽技能者育成会第 55 期修了/NHK 邦楽オーディション合格、平成 31 年度文化庁新進芸術家国内研修員/出雲大社 平成の大遷宮奉祝行事にて奉納演奏を務めるなど寺社仏閣での奉納演奏多数。ドイツ、韓国などで海外公演も行う/様々な古典本曲を学ぶことで古典尺八音楽に対して多面的な視点を持ち、それを自らの音楽性へ反映。古典尺八を重視しながら新たな尺八アレンジで音楽を模索し続けている。琴古流尺八貴風会会員、公益社団法人 日本三連会盟会員、琴古流協会会員、専門学校 ESP エンタテインメント大和楽器特別セミナー JPC(ジャバニーズ・ポップカルチャー)特別講師。



### 小濱 明人

AKIHITO OBAMA

高松市出身/琴古流尺八および古典本曲を石川利光に師事/民謡尺八を米谷智に師事/NHK 邦楽オーディション合格/尺八新人王決定戦優勝/国立劇場主催「明日になう新進の舞踊・邦楽鑑賞会」に出演、「歩き遍路 四国八十八ヶ所奉納演奏 Tour」を敢行、「ACC の助成により NY に留学/山下洋輔 & LOTUS POSITION」として中東ツアーを行う/2018 年より国際芸術祭参加公演「小濱明人 リサイタル」を連続開催/「国際尺八フェスティバル(シドニー・ロンドン・パリ)」、「ラ・フォル・ジュルネ(フランス)」等の国際音楽祭に招待/海外公演も多く、計 36 国で行っている/The Shakuhachi 5.1、伊藤多喜雄「TAKIO BAND」等数々のグループに参加/古典本曲三部作「寂静光韻」、自作曲集「波と椿」と「水と SUI~」他計 10 枚のアルバムを発表/虚無僧研究会会員/学習院大学非常勤講師



### 川村 葵山

KIZAN KAWAMURA

東京都出身/東洋大学卒。NHK 邦楽技能者育成会第 51 期修了/8 尺を父・川村泰山に師事/都山流八楽会准師範試験、師範試験共に首席合格/国際交流基金派遣等によりロシア、アメリカ、台湾、シンガポール、フランス、イギリスで演奏/NHK オーディション合格。NHK ラジオ「邦楽のひととき」出演/第 15 回くまもと全国邦楽コンクールにて最優秀賞・文部科学大臣奨励賞受賞/NHK テレビ「芸能花舞舞台」出演/第 36 回、第 38 回都山流全音本曲コンクールにて共に金賞受賞/現在、都山流大師範、講士補。都山流八楽会、泰山会、和のオーケストラ「むつのを」、尺八四重奏団「破竹」等に所属



### 川村 泰山

TAIZAN KAWAMURA

1947 年生まれ、片山了山、初代山本邦山(人間国宝)に師事/同事・同志社大学工学部・正派音楽学部・音楽科・音楽系。NHK 邦楽技能者育成会卒・都山流尺八本曲コンクール第一位・文部大臣賞(83 年)、文化庁芸術祭賞(88 年)受賞、都山賞(89 年)、第 1 回ソウル笛子フェスティバル優秀賞(96 年)。独奏者としての活動のほか、尺八アンサンブル「尺八 1979」、三曲のグループ「新しい風」、日本の音を未来に伝えるべくコンサートを開催し、「むつのを」などで活動/国際交流基金の派遣などによりヨーロッパを中心に 20 国を訪問/「CD「山河霞露」「組曲富士」・都山流泰村大師範、検定員、都山流講士、公益法人都山流八楽会評議員、公益法人社長、都山流八楽会会長、山本邦山八合奏団団員、元東京藝術大学非常勤講師、元 NHK 邦楽技能者育成会講師・都山流泰山会を主宰・都山流出版部、大日本家庭音楽会より楽譜を出版



### 倉橋 容堂

YODO KURAHASHI

京都市出身/在住、尺八道場「無住庵」主宰、初代倉橋容堂(父)及び松村蓬盟に師事/京都市芸術文化協会評議員、京都三曲協会理事、京都邦楽グリーブ理事を歴任して、現在京都明暗寺虚竹禅師奉讃会常任理事/「大阪文化祭典委嘱」(京都市芸術文化協会賞)等を受賞/アメリカ雑誌「ニューエイジマガジン」が古典本曲 C D を「C D オブザイヤー」に選定/毎年 2 回定期尺八講座をニューヨーク、フィラデルフィア、ワシントン、サンフランシスコ、ダラス、ニューヨーク州ロチester、メーン州ポートランドと中国・北京で開講中、クロコラム・ロード・オブ・ザ・ワールド・アンド・チャイナ・マーチン・アンド・エキスポート・アンド・カンパニーにて開催/「The Shakuhachi 5.1」、伊藤多喜雄「TAKIO BAND」等数々のグループに参加/古典本曲三部作「寂靜光韻」、自作曲集「波と椿」と「水と SUI~」他計 10 枚のアルバムを発表/虚無僧研究会会員/学習院大学非常勤講師



### 小林 純

JYUN KOBAYASHI

1960 年生まれ、大阪府出身、大学時代に川村泰山師に入学し、尺八の道に進むことを決意。今日に至る/ロックやジャズ、世界の民族音楽などに系統し、中学時代から続けてきたバンド活動の影響もあり、作編曲と演奏活動を一体としたスタイルを続けていた/他ジャンルの音楽家との共演も積極的に取り組み、その数と方向性は多岐にわたる/また、邦楽器の為の作曲の他、次世代に伝統楽器の素晴らしさを伝えたいという思いから、ゲーム音楽やアニメーションの邦楽器版アレンジも数多く手がけてきた/和のオーケストラむつのを所属、自身のバンド「Pure Well Right」で活動中。



### 小湊 昭尚

AKIHISA KOMINATO

民謡小湊流一家の長男として生まれ、5 歳より両親の手ほどきを受け舞台活動を開始/1985 年少年少女民謡大会において最優秀賞受賞/1995 年より故 人間国宝 山口五郎氏に師事/1997 年東京芸術大学音楽学部邦楽科 8 小專入に入学、2001 年 3 月同大学卒業/2004 年 avexから AN ジャーナル「レコード工房」を発売/2015 年より NHK World Blends の音楽プロデューサーとして番組に参加/2017 年 3 月天皇皇后両陛下ご訪問の際、タイ前国王追悼ビデオ両国共同製作プロジェクトに参加/伝統邦楽、古典に加え、民謡、ボップス、ジャズなどジャンルを問わずにラジオ、ライブ、コラボートなど国内外で活動中/エリック・マーティン、スザン・ボイル、石井竜也 Gackt、EXILE、など、多数アーティストとのレコード制作を行なう。古典から現代音楽に至るまで幅広く活動を行なう。都山流八尺大師範、桐朋学園芸術短期大学日本音楽尺八科非常勤講師



### 坂田 梁山

RYOZAN SAKATA

香川県生まれ。神戸大学在学中より岸原周山・川村泰山に師事/NHK 邦楽技能者育成会第 30 期を卒業し、第 13 回都山流本曲コンクール金賞、文部大臣賞受賞者、各種コンクールで受賞/鬼太鼓座公演、劇団四季ミュージカル、岡村鶴太郎主演ミュージカル参加に加え、小枝佳、南こうせつ等のコンサートにも参加し、様々なミュージシャンと共に演奏。海外公演も多くの回で行なう/C D 録音、テレビ(「レコード工房」を発売)、2015 年より NHK World Blends の音楽プロデューサーとして番組に参加/2017 年 3 月天皇皇后両陛下ご訪問の際、タイ前国王追悼ビデオ両国共同製作プロジェクトに参加/伝統邦楽、古典に加え、民謡、ボップス、ジャズなどジャンルを問わずテレラジオ、ラジオ、ライブ、コラボートなど国内外で活動中/エリック・マーティン、スザン・ボイル、石井竜也 Gackt、EXILE、など、多数アーティストとのレコード制作を行なう。都山流八尺大師範、桐朋学園芸術短期大学日本音楽尺八科非常勤講師



### 柴 香山

KOZAN SHIBA

3 歳よりピアノを始める。高校はピアノ、大学は声楽科を卒業。19 歳で尺八に出会い、大学卒業後藤原道山氏に師事/大学在学中よりピアノと尺八のユニットを結成し演奏活動を行う。その他和楽器と洋楽器を組み合わせたユニットで活動。作曲、アレンジも担当する。SMEL コースより発売された Bamboo Flute Orchestra「尺八Classic」でメジャーデビュー/現在様々な邦楽のミニージャンルと一緒に演奏活動を行なう。また、学校公演や自身の主宰する尺八教室などにおいて後進の指導にも務める/日本大学芸術学部音楽学科卒業。都山流尺八楽会准師範・師範試験共に首席登第/第三曲協会会員、オーケストラアジア・ジャパン団員、柴音楽教室主宰、和楽器カルテツ「サイタマティック」メンバー/柴音楽教室ホームページ <http://kohzhan48.xsrv.jp>



### 神 令

REI JIN

1980 年東京生まれ、尺八古典本曲の達成者「神道道」を祖父とし、幼少より広く日本の古典芸能に親しむ。尺八を父・神正如、青木鈴慕、川瀬順輔、山本邦山、徳丸十盟の各氏に師事/現代邦楽会常任理事、東京藝術大学音楽学部邦楽科(尺八専攻)修士課程修了/2007~2009 年、2015~2020 年現在、同大学音楽学部邦楽科教育研究助手を務める/ NHK 学園国立オーピングスケール講師、早稲田大学竹友会会師範。琴古流会常任理事、東洋音楽学会会員/尺八古典本曲の伝承者としての活動を基礎として、国内外のジャンルを超えて、様々なアーティストとの共演を精力的に行なっている/2009 年 CD アルバム「アマルガム~尺八とビアノ~」(フォンティック)、2012 年ソロ CD アルバム「尺八古典本曲 神令」(日本伝統音楽文化振興財団)をリリース



## 善養寺 恵介

KEISUKE ZENYOJI



東京藝術大学邦楽科卒業、同大学院修士課程修了／6歳より、虚無僧尺八の手ほどきをうける／同大学在学中は山口五郎師／人間国宝に師事／1999年、第1回リサイタルを開催以来、現在に至るまで13回を重ね、2017年のリサイタルでは文化庁芸術祭大賞を受賞／2000年2月、尺八教則本「はじめての尺八」(音楽之友社刊)を執筆／2002年5月、日本伝統文化振興財団賞受賞。同年10月、世界銀行主催、世界宗教者国際会議(於：イギリス、カンタベリー大聖堂)にて、招待演奏／2017年度、芸術選奨文部科学大臣賞を受賞。古典を中心とした演奏活動のほか、関東各地にて尺八普及のための尺八教授活動を行っている。公式web site <http://zenyoji.jp/>

## 素川 欣也

KINYA SOGAWA



尺八演奏を横山勝也、尺八製管を玉井竹仙に師事／日本音楽集団(1981～1990)及び、オーケストラアジア(1997～2017)の演奏活動に参加／尺八古典本曲を軸とした国内外での演奏活動の他、スタジオミュージシャンとして、演歌、ゲーム音楽、映画音楽、CM音楽、等さまざまな分野で活躍している。

## 田嶋 謙一

KENICHI TAJIMA



12歳より尺八を始め、父である田嶋直士に師事。2006年 東京芸術大学 邦楽科尺八専攻を卒業／2009年～

2012年 東京芸術大学邦楽科助手／2014年初のリサイタルで第69回文化庁芸術新人賞受賞／日本各地、及び海外で古典を中心とした数々の演奏を行なう。ジャズ、クラシック、ポップスなど様々なジャンルの音楽とコラボレート、東京芸術大学や立正大学などの教育機関及び各種イベントの尺八に関する特別講義やアワードリーチ、演奏会企画、音楽劇などの脚本・演出・音楽監督などの活動のかたわら、尺八の普及のための水道管尺八を用いたワークショップなどの講師をつとめ、尺八の可能性を広げるべく多方面にわたり活動に活動している／「田嶋謙一オルケストラ」主宰、NPO法人邦楽普及協会理事、「和楽器オーケストラあいおい」会員、「日本三曲協会」会員

## 徳丸 十盟

YUIMEI TOKUMARU



幼少より父に琴古流尺八を習う／東京藝術大学音楽学部邦楽科尺八専攻卒業、同大学院修士課程修了／

在学中より人間国宝・故山口五郎に師事／ヨーロッパ各国、アメリカ、ロシア、インド、アフリカ各国など世界各地で演奏／東京藝術大学邦楽科尺八専攻非常勤講師を務めるなど後進の指導にも当たる／第1回ビクター邦楽オーディション合格／平成19年度(第58回)芸術選奨文部科学大臣新人賞受賞／平成20年度江戸川区文化奨励賞受賞／CD「琴古流尺八 徳丸十盟」(ピクターレコード)／「幽玄なる響き—山口五郎の尺八と生涯」(芸術出版社)／琴古流尺八 雅道会主宰

## 田辺 恵山

KEIZAN TANABE



16歳より父・田辺頌山に手ほどきを受け尺八を始める。藤原道山に師事／東京藝術大学音楽学部卒業、同大学院音楽研究科修了、都山流尺八楽会師範試験に首席登第、NHK邦楽オーディション合格／東京コレクション、IMF・世界銀行年次公演、東京スカイツリー開業セレブレーション、東京五輪・パラリンピック4ヶ国協議会セレブレーション等多くのイベントに出演／2018年、Sony Musicより女性尺八奏者5人組ユニットbamboo flute orchestra「尺八Classic」でメンバー／桐朋学園芸術短期大学日本音楽専修尺八専攻非常勤講師、文化庁文化芸術による子供の育成事業、東京都文化発信プログラム講師参加

## 本間 豊堂

TOYOTAKA HONMA



1975年5月8日、東京生まれ。幼少より茶道、筝曲に親しみながら育つ／中央大学「竹桐会」で琴古流尺八を加藤秀和に、生田流筝曲右芦垣美穂に習う／大学卒業後、古典尺八を横山勝也に師事／現在、東京都東大和市在住／演奏・ライブ活動、尺八教室、学校公演を中心に幅広く活躍する／「竹桐会」(横山勝也門下)所属、邦楽創作集団「オーラJ」、和のオーケストラによる「笙ひろみとマジック・キャラバン」メンバー／日本三曲協会、小平市三曲協会会員 <http://honmatoyotaka.jp/>

## 松本 宏平

KOHEI MATSUMOTO



大阪府出身。京都大学文学部・NHK邦楽技能者育成会53期卒業／琴古流尺八／古典本曲(横山勝也)及び尺八奏法を石川利光師に師事／横笛派錦風流古典本曲(神道道伝)を神令師に学ぶ／2005年 全国邦楽コンクールにおいて最優秀賞・文部科学大臣奨励賞を受賞、同年 イタリア・トスカーナ「ブッチーニフェスティバル」へ招待されゲストコンサート／2011年より古典本曲のみによるコンサートシリーズ「古典本曲の現在」を企画・主宰／東京を拠点に「名もなき虛無僧たちの残した遺産：古典本曲」を軸としながら、ジャンルにとらわれないボーダレスな活動を続けて、様々なアーティストとの共演やラジオやテレビの録音、放送も多数行っている／松本宏平尺八教室主宰、財団法人松原市文化情報振興財団主催「尺八教室」講師・首都大学東京非常勤講師、JEUGIAミュージックサロン講師。(公社)日本三曲協会会員

## 米谷 和修

WASYU YONEYA



1963年、福岡県八女市出身(本名/中村和義)福岡大学邦楽爱好者会に所属し尺八を始め、渡辺鶴氏に尺八の手ほどきを受けた後、民謡会の重鎮、米谷威和氏に師事／1991年、第37回NHK邦楽技能者育成会に入会と同時に上京し、米谷威和氏の内弟子となり全国の民謡の習得に励む／以来常に米谷会の中心に居て活動し、代稽古・民謡誌への執筆・楽譜発行に関わると共に、幾多のテレビ・ラジオ番組に尺八・笛奏者として出演し、活躍している／米谷威和氏他界の後は、2001年より尺八奏法全般を宮田耕一郎師に師事、2008年からは、海童道祖・横山勝也の流れを汲む古典本曲を森川欣也氏に師事し研鑽を積んでいる

「日本尺八演奏家ネットワーク(JSPN)」はプロの尺八演奏家たちが結集し、世界に向けて尺八音楽と尺八演奏家の価値を高めて行きたいと考え設立した「唯一の尺八演奏家団体」です。

## 竹井 誠

MAKOTO TAKEI



1956年東京生まれ、埼玉大学数学家卒／在学中より日本音楽集団尺八奏者／尺八を宮田耕一郎、藤崎重康、笛を4世月野太八に師事／入団後、篠笛、能管を取り組み、1980年代後半より長唄囃子として活動。数少ない、尺八、笛兼任奏者として日本音楽集団、林英介、仙波清彦主催の十数回の海外公演に参加／一方で隔年で東京芸術大学で現代邦楽の笛の指導に当たる／現在、日本音楽集団団員、三橋美香子と蒙古箒メンバーズ。フルート、ピッコロの研鑽にはげみ、ライブ、セッションのステージに立つとともに、オーケラウド式縦吹フルートの一種であるカルクリートを独立したジャンルとして、確立させるのに役立てたいと考えている

## 武田 旺山

OZAN TAKEDA



滋賀県出身、東京藝術大学大学院修了、92年都山流尺八師範試験に主席登第／99年「武田旺山尺八演奏会」を開催／00年「松坂典子 武田旺山『親展』」を開催／02年平和堂財団芸術奨励賞を受ける／03年都山流尺八大師範を許される。東京藝術大学在学中に尺八を人間国宝・山口五郎、北原篁山、人間国宝・山本邦山の各師に師事／現在、(公財)都山流尺八楽会大師範／(公社)日本三曲協会、滋賀県三曲協会、都山流邦山会、豊島区邦楽連盟、竹の会会員、ぐるーぶ湖響、山本邦山尺八合奏団に所属

## 田野村 聰

SOH TANOMURA



1982年岡山県倉敷市生まれ、岡山市出身／鳥根大学総合理工学部卒／少年期よりギター、電子音楽制作、DJ等の音楽遍歴を経た後、祖父の形見である楽器を手に18歳より尺八を始める／在学中、琴古流尺八を覚秀月氏、現代邦楽を田辺剣山氏、田辺頌山氏に師事／上京以後、普原久仁義氏に師事／NHK邦楽技能者育成会第51期修了／第17回長谷校検記念くまもと全国邦楽コンクール優秀賞／NPO法人日本音楽集団団員／2016年より同団理事／「おかあさんといっしょアーティストコンサート音楽博士のうらかコンサート」(NHK)、「芸能人格付けチェック」(テレビ朝日)等のTV出演、ゲーム「龍が如く維新!」(SEGA)等の録音参加の他、著名アーティストのサポート等多方面で活躍／既存の枠にとらわれない奔放なスタイルで尺八の可能性を追求している

## 原郷 界山

KAIZAN HARAGO



10才より父、原郷惠山に手ほどきをうける／都山流尺八を故石垣征山氏に師事／N H K邦楽オーディション合格／くまもと全国邦楽コンクール優秀賞(合奏の部 爽・大月邦弘氏と)／映画「花の億人」(出演:石牟礼道子 監督:金大偉 企画・制作:藤原書店)にて演奏参加／中国、四川省眉山Bamboo Art Show(世界の竹楽器を集めたコンサート)出演／現在、都山流大師範、日本音楽集団団員、獅子の会所属／N H K邦楽技能者育成会第44期卒業／これまで日本各地のステージでの演奏をはじめ、テレビ、ラジオなどの放送、録音等多くのジャンルで幅広く演奏活動を行なっており、学校公演、後進の育成など尺八普及の為の活動にも注力している。

## 山口 連山

RENZAN YAMAGUCHI



10才より父、原郷惠山に手ほどきをうける／都山流尺八を故石垣征山氏に師事／N H K邦楽オーディション合格／くまもと全国邦楽コンクール優秀賞(合奏の部 爽・大月邦弘氏と)／映画「花の億人」(出演:石牟礼道子 監督:金大偉 企画・制作:藤原書店)にて演奏参加／中国、四川省眉山Bamboo Art Show(世界の竹楽器を集めたコンサート)出演／現在、都山流大師範、日本音楽集団団員、獅子の会所属／N H K邦楽技能者育成会第44期卒業／これまで日本各地のステージでの演奏をはじめ、テレビ、ラジオなどの放送、録音等多くのジャンルで幅広く演奏活動を行なっており、学校公演、後進の育成など尺八普及の為の活動にも注力している。

## Japan Shakuhachi Professional-players Network [JSPN]

Consisting solely of professional Shakuhachi musicians, the Network was founded in July, 2018 for the principle purpose of enhancing the value of Shakuhachi music and musicians, and contributing to the development and diffusion of Japanese culture. Recognizing the diversity, personality and individuality of Shakuhachi music, the Network boosts research on and improvement of the instrument itself, promotes research and analysis of Shakuhachi music, and encourages information-sharing regarding playing techniques and teaching; and by means of flexible ideas and a high level of musicianship based on the abundant experience of its members, the Network intends to become a source of communication and promotion for new Shakuhachi music in its ongoing activities.

## ■日本尺八演奏家ネットワーク [JSPN]

<顧問> 川瀬順輔

<特別会員> 研究家 / 作曲家 / 制作者 / 有識者 ※50音順／13名

愛澤伯友 神田可遊 黒河内茂 小菅大徹 志村 哲  
高橋久美子 田中隆文 谷垣内和子 長尾 敬 野川美穂子  
藤本 草 前田智子 森重行敏

<正会員> 演奏家 ※50音順／73名

青木琳道 茂垣皋盟 阿部大輔 イオ・パヴエル 石垣征山  
石川利光 岩田卓也 大河内淳矢 大賀悠司 大山貴善  
岡田道明 小濱明人 柿堺 香 加藤奏山 加藤秀和  
金子朋沐枝 神永大輔 川崎貴久 川俣夜山 川村葵山  
川村泰山 菊地河山 鯨岡 徹 工藤煉山 倉橋容堂  
小林 純 小湊昭尚 酒井帥山 阪口夕山 坂田梁山  
設楽瞬山 柴 香山 白鳥良章 神 令 菅原久仁義  
関 一郎 善養寺恵介 素川欣也 竹井 誠 武田旺山  
田嶋謙一 田中黎山 田中康盟 田辺恵山 田辺頌山  
田辺冽山 田野村聰 徳丸十盟 友常毘山 中村仁樹  
難波竹山 野村峰山 野村幹人 橋本竹咏 長谷川将山  
原郷界山 藤田天山 藤原道山 渕上ラファエル広志  
古屋輝夫 本間豊堂 真玉和司 松岡幸紀 松本宏平  
見澤太基 三塚幸彦 三橋貴風 元永 拓 森田柊山  
山口連山 山崎北山 米澤 浩 米谷和修

## ■第2回定期公演スタッフ

実行委員長 菅原久仁義

事務局 田辺冽山 松本宏平

舞台/進行 工藤煉山 大賀悠司 大山貴善 工藤煉山 武田旺山  
田嶋謙一 渕上ラファエル広志 本間豊堂 山口連山

感染対策 野村峰山 石垣征山 岩田卓也 大河内淳矢 小濱明人

小湊昭尚 坂田梁山 田野村聰 見澤太基 元永 拓

受付 神 令 川村葵山 柴 香山 善養寺恵介 田辺恵山  
田辺頌山 原郷界山

撮影 井上大輔

デザイン 酒井利政

企画制作 田辺冽山

## 尺八奏法講座 －プロから学ぼう尺八奏法－ <オンライン限定「zoom」開催>

プロの尺八演奏家達はどのような「奏法」を

「どのような場面で使っているのか？」そのために「どのような練習をしているのか？」

2021年

【第6回】7月24日(土)受付15:30／開講16:00

講師 徳丸十盟 ※休憩を含む2時間程度

テーマ 『細かな運指のテクニック』 邦楽ジャーナル誌連載  
「琴古流の秘密」と連携して

■12月に第1回～6回奏法講座のアーカイブ配信予定です

## 尺八サロンコンサート vol.2

Shakuhachi Salon Concert organized by JSPN Vol.2

ー尺八アンサンブルの諸相ー明治から令和へー

2021年 9/14(火) 18:30 open / 19:00 start

### 日暮里サニーホール・コンサートサロン

前売 ¥4,000／¥3,000 (サポートー・学生)

当日 ¥4,500／¥3,500 (サポートー・学生)

■プログラム 「光明へ」本居長世作曲 「清姫」金森高山作曲  
「新作/初演」冷水乃栄流作曲 他



公式ホームページ

<https://jspnweb.wixsite.com/jspn>

Eメール jspn.sec@gmail.com

日本尺八演奏家ネットワーク

**JSPN**

Japan Shakuhachi Professional-players Network

日本尺八演奏家ネットワーク



Japan Shakuhachi Professional-players Network

## サポーター〈賛助会員〉募集のお知らせ

JSPNは新たな尺八音楽発信の源として2018年に設立された、国内唯一のプロ尺八演奏家団体です。国内外での活発な尺八音楽の情報発信、そして豊富な経験を元に柔軟な発想や演奏力をもって新たな提案を行っていくために、「サポーター(賛助会員)」への御協力をお願い申し上げます。

### 特典

- ・主催イベントの割引・優先販売
- ・サポーター限定情報の配信
- ・動画などサポーター限定コンテンツも多数配信予定
- ・その他当団体活動に関する優先的なご案内

### 年会費

個人:2,000円 団体／法人:20,000円

※ご寄付も隨時受け付けております。

### 会員期間

4月1日より翌年3月31日まで

### 入会方法

以下の事項を明記の上JSPN事務局までメールでお申し込みください。

・氏名 ・メールアドレス ・電話番号 ・住所 ・会員種別(個人／団体・法人)

JSPN事務局メールアドレス(お間違えの無いよう送信ください)

**jspn.sec@gmail.com**

ホームページ(<https://www.jspn.org/>)からもお申込みいただけます。

または、以下お申込みフォームにご記入の上、演奏会・イベント時に受付へお渡し頂いても構いません。

### JSPNサポーター申込フォーム

会員区分  個人  団体／法人

(フリガナ)  
氏名

(フリガナ)  
団体／法人名

※団体／法人会員のみ

住所〒

電話

メール

※PCから受信可能なアドレスをご記入ください